

[第 32 回定時株主総会 主な質疑応答 (要旨)]

Q1. パチンコ・パチスロ業界の将来性も視野に、フィールズの 10~20 年先の展望を伺いたい。

A1. 世の中には多種多様なレジャーがあり、とくに若い世代は SNS やゲーム、映画・動画配信等、多くの選択肢の中で余暇を楽しめる環境下にある。彼らのような若い世代を現状のパチンコ・パチスロで長きに渡り惹き付けることは難しいと考え、当社は新しい遊技の在り方を研究しているところである。

パチンコ・パチスロは、とくに地方に住まわれている高齢層の方々が楽しめる余暇の一つであり、周囲との交流の場としても重要な位置を占めていることから、最低でも今後 10 年は必要とされる余暇であると考えている。

他方で、当社はパチンコ・パチスロの開発・販売のみならず、円谷プロダクションをはじめとする多様なコンテンツやキャラクターを創出・育成する会社や、デジタル・フロンティアをはじめとする素晴らしい映像を生み出す会社をグループに有している強みがある。各社のシナジーを発揮して、若い世代にも喜ばれるコンテンツを創出し続けることで、20 年先、30 年先を見据えた、さらなる成長を目指していく。

Q2. 第 2 号議案「定款一部変更の件」について伺いたい。変更案第 9 条ならびに第 39 条の新設によって、株主ならびにマーケットにどのような変化が期待できるのか、教えて欲しい。

A2. いずれも、取締役任期の変更に伴って現行定款から第 37 条および第 38 条の 2 項、3 項を削除することにより生じる所要の変更である。

変更案第 9 条の新設により、取締役会の決議による自己株式の取得が従来通りに行えるため、機動的な資本政策を維持できる。変更案第 39 条も同様に、柔軟な株主還元施策を行うことを従来通りに可能とする規定である。

Q3. コロナ禍でのフィットネス事業や円谷プロダクション等の状況について伺いたい。

A3. 休業要請が出たフィットネス等のサービス関連事業については、要請に準拠して適切な対応をとっている。

円谷プロダクションについては、イベント中止や映画公開の延期等、一部で影響がみられるものの、外出自粛による巣ごもり消費の高まりを受けて WEB 関連事業に注力している。

デジタル・フロンティアについては、約 200 名の社員のうち約 7 割が在宅勤務にシフトしており、効率よく業務を行える体制を確立している。

Q4. SANKYO 社との関係性について伺いたい。直近で同社によるフィールズ株式の売却が見受けられるが、これは同社との関係性に何らかの変化があったということか？

A4. ガバナンスの観点から双方で持ち合い株式の解消を進めているものであり、関係性に何ら変化は無い。今後も強固なパートナーシップを維持しながら、良い商品を市場に提供していく所存である。